

平成30年度の耐震化事業の結果について

平成30年度に実施した公共建築物の耐震化事業等の結果は次のとおりです。

1 公共建築物の耐震化事業の状況

(1) - 1 耐震改修設計

施設名	所在地	診断結果 ^{※1}			備考
			Is値 ^{※2}	C _{TU} ・S _D 値 ^{※3}	
第27消防分団 器具置場	材木座五丁目 13番4号	診断時	0.45	0.49	・補強コンクリート ブロック造 ・工事時期未定
		改修後	0.66	0.44	
第28消防分団 器具置場	大町二丁目 4番21号	診断時	0.40	0.44	
		改修後	0.67	0.60	
名越やすらぎ センター	材木座二丁目 15番3号	診断時	0.647	0.575	・鉄筋コンクリート造 ・がけ地に立地 ・H31年度 工事予定
		改修後	0.832	0.575	

※名越やすらぎセンターはがけ地にあるため、Is=0.66、C_{TU}・S_D=0.33を基準とし、Is=0.825、C_{TU}・S_D=0.413を目標に設計を行っています。

(1) - 2 耐震改修設計（生涯学習センター管理運営事業）

施設名	所在地	診断結果 ^{※1}			備考
			Is値 ^{※2}	C _{TU} ・S _D 値 ^{※3}	
鎌倉生涯学習 センター	小町1丁目 10番5号	診断時	0.294	0.397	・鉄筋コンクリート造 ・H31-32年度 工事予定
		改修後	0.752	0.813	

(2) 耐震改修工事（子ども会館・子どもの家整備事業）

施設名	所在地	診断結果 ^{※1} 上部構造評点 ^{※4}		備考
(仮称)おなり 子どもの家等 (旧図書館部分)	御成町18番35 号	診断時	0.09	・木造 ・H30年3月着工、竣工未 定
		補強設計	1.30	

※(仮称)おなり子どもの家については、工事着手後に旧図書館部分の木材の腐朽が想定以上で修正設計が必要となったため、工事を中断しています。

※1 診断結果は、各階・各方向について算出した指標の最低値（建物の代表値）を掲載

※2 Is値：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の耐震性能を表す構造耐震指標（Seismic Index of Structure）

※3 C_{TU}・S_D値：主に鉄筋コンクリート造の建築物に適用される、建物の頑丈さを表す指標（終局累積強度指標（C_{TU}）と形状指標（S_D）の積で求められる）

※4 上部構造評点：木造建築物の耐震性能を表す指標

2 耐震性能の指標について

(1) I_s 値、 $C_{TU} \cdot S_D$ 値とは

I_s 値は建物の耐震性能を表す構造耐震指標 (Seismic Index of Structure) の略で、建物の構造部材の強度と粘りをもとに、形状や劣化を考慮して算出するもので、 I_s 値が大きいほど、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性が高いと判断されます。

$C_{TU} \cdot S_D$ 値は主に鉄筋コンクリート造の建築物に適用される、建物の頑丈さを表す指標 (終局累積強度指標 (C_{TU}) と形状指標 (S_D) の積で求められる) で、 $C_{TU} \cdot S_D$ 値が大きいほど耐震性能が高いと判断されます。

国の基準では、「 I_s が 0.6 以上の場合で、かつ、 $C_{TU} \cdot S_D$ が 0.3 以上の場合」に、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」とされています。

(2) 上部構造評点とは

上部構造評点は、木造建築物の各階・各方向について、想定地震に対して必要な耐力と建築物が保有する耐力の比で表したものです。

上部構造評点が高いほど想定地震に対する安全性が高いと判断されます。

評点 1.0 が、建築基準法の求める大地震時性能を有しているかどうかの判定基準となり、1.0 を下回れば、倒壊する可能性があります。